

第33回特定非営利活動法人
日本顎変形症学会総会・学術大会

市民公開講座

外科的矯正治療による 顎変形症の治療

日時：**6月9日** 金 17:00～18:00

会場：学術総合センター（一橋講堂）

〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2

参加費
無料

事前申込
不要

当日会場へ
お越しください

プログラム

座長：大塚 雄一郎（明海大学歯学部 歯科矯正学分野 准教授）

1. 受け口・出っ歯は健康保険で治療できます！

講師：嶋田 淳（明海大学歯学部附属明海大学病院 教授）

2. 外科的矯正治療における手術前後の矯正治療

講師：須田 直人（明海大学歯学部 歯科矯正学分野 教授）

大会HP：<https://www.procomu.jp/jsjd2023/>

お問い合わせ先 第33回特定非営利活動法人 日本顎変形症学会総会・学術大会 運営事務局

〒135-0063 東京都江東区有明三丁目6番地11 TFTビル東館9階

株式会社プロコムインターナショナル

TEL：03-5520-8821 FAX：03-5520-8820 E mail：jsjd33@procom-i.jp



受け口・出っ歯は健康保険で治療できます！

嶋田 淳（明海大学歯学部附属明海大学病院 教授）

いわゆる受け口や出っ歯の治療というと、美容整形を思い浮かべる方も多いと思います。顔の形を美しくする為の手術ですから、まぶたを二重にする手術や鼻を高くする手術と同じように捉え、形成外科や美容クリニックを訪れる方も多いと思います。しかし、受け口や出っ歯の原因は顎の骨の変形、顎の骨格の異常のみでなく、歯並びや上の歯と下の歯の咬み合わせの不整が伴っていることがほとんどで、こちらの方が主たる要因となる場合もあります。これらの顎の変形と咬み合わせの異常を学問的に顎変形症といっています。

この顎の骨の変形があると、見た目の違和感に加え、それに伴う咬み合わせの異常から、咀嚼困難、すなわち食べ物が良く咬めないとか、サ行すなわちサ・シ・ス・セ・ソが上手く発音できないなどの機能の障害が起こります。また、下の顎が小さいと顎の関節（顎関節）に負担がかかり、顎関節症が生じて痛みで咬めないとか関節の骨が溶ける様な障害が生じることもあります。

ですから顎変形症の治療の目的は、これらの機能の障害を治療することに主眼を置くこととされ、日本口腔外科学会の働きかけで健康保険治療への導入がなされました。したがって、顎変形症の治療には顎の手術のみでなく、必ず歯列矯正治療が必要です。単に顎の形だけ手術で整えても、上顎の歯と下顎の歯が新しく作られた顎の骨の位置できちんと咬合していないと、機能の回復がなされないばかりか、咀嚼に伴う顎の運動と顎の骨にしている筋肉の力で顎の骨はもとの位置に戻ろうとして、せっかく整えた形に後戻りが生じます。

一般に、顎変形症の治療は1～2年の手術前の歯列矯正治療とその後の顎の骨の手術、さらに歯列の微調整の為に術後矯正が必要です。

手術は、安全のため入院下の全身麻酔で行う必要があります。入院期間は1週間から2週間です。

この健康保険での治療は、全ての歯科医院、矯正科、口腔外科で行える訳ではなく、県知事に申請して認可を受けた施設でのみ可能です。歯並びの不整や顎の変形がある方はぜひ最寄りの矯正歯科で相談を受けてみて下さい。以下のリンクの施設で対応可能です。

<https://www.jpao.jp/files/JpAOjiritushien20140930.pdf>

経歴

1984年：城西歯科大学大学院卒業歯学博士

2004年：明海大学歯学部病態診断治療学講座口腔顎顔面外科学分野 1 教授

2020年：明海大学歯学部附属明海大学病院教授（現在に至る）

日本口腔外科学会専門医・指導医、国際口腔外科専門医、日本歯科麻酔学会認定医、日本口腔科学会認定医、日本有病者医療学会認定医・専門医、日本小児口腔外科学会指導医、日本口腔インプラント学会専門医・指導医、日本顎顔面インプラント学会専門医・理事長、ICOI国際口腔インプラント学会フェロー・ディプロマ・理事長



外科的矯正治療における手術前後の矯正治療

須田 直人（明海大学歯学部 歯科矯正学分野 教授）

歯並びや咬み合わせの問題点の多くは、矯正歯科治療だけで直すことができます。しかしながら、上と下の顎の大きさの不調和や変形を原因として、歯並びや咬み合わせに異常が生じることがあります。このような状態を顎変形症と呼び、問題点は歯だけにとどまらず、顔全体の印象にも影響します。外科的矯正治療の目的はこれらの問題点を改善することです。

外科的矯正治療では、まず固定式の矯正装置を装着して歯並びを直します。その後、入院と全身麻酔を伴う顎の外科手術を行います。手術後はまた矯正治療を一定期間行います。

治療は短期間では終わりませんが、咬み合わせはもちろんのこと、顔の形態が大きく改善します。本講演では、主として顎の手術前後に行う矯正治療の概要についてお話しいたします。



経歴

1988年：北海道大学 歯学部卒業

1992年：東京医科歯科大学 大学院歯学研究科修了（歯科矯正学専攻）歯学博士取得

1998年：東京医科歯科大学大学院 顎顔面矯正学分野 助教

2005年：同上 講師

2010年：明海大学歯学部 形態機能成育学講座 歯科矯正学分野 教授（現在に至る）